

# 後援会だより

創刊号2004 . 3 . 1

編集発行 / 鹿児島大学法文学部後援会

## 本誌の案内

ごあいさつ 後援会会長 十島雅蔵  
後援会だよりの発刊にあたって 法文学部長 辰村吉康  
学内事情 教務委員会 法文学部の国際交流  
ドイツ留学の抱負 就職委員会  
学生の声 (就職活動体験談)

広報委員会の活動  
学生の声 (学部等紹介)  
後援会設立の経緯  
平成15年度法文学部後援会事業報告  
法文学部後援会役員名簿

## ごあいさつ

鹿児島大学法文学部後援会  
会長 十島雅蔵

拝啓 もうすぐ春うらら。会員の皆様方がお過ごしでしょうか。ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年(2003)の8月2日に本後援会の設立総会が開かれて、はや半年が過ぎました。本会は、在学生の保護者を中心に、特別会員(教職員)や協力会員(会の趣旨に賛同される方)で構成され、学部・大学院の教育・研究、さらには卒業生の進路支援等の充実を背後から支援することを目的として設立されました。設立以来、多くの会員の皆様方の御協力により、無事好調なスタートを切ることができました。心より感謝申し上げます。

昨年(2003)の6月6日には、地域政策科学専攻の博士後期課程や臨床心理学の指定大学院の設立記念式典・祝賀会が開催されましたし、またあの難関を乗り越えてロースクールの設置が認可されるなど、法文学部の発展が目を当たりにできることは後援会として慶賀にたえません。辰村学部長をはじめ、設立に携わられた教職員の方々のご苦勞は大変なものだったろうと推察いたします。しかし、今年の4月からは、いよいよ国立大学の法人化が実施され、さらに大きな時代の波が打ち寄せてきます。この変革のエネルギーをバネに法文学部・

大学院は、地域に根ざしてさらに新しい発展を遂げられることと期待しています。

わが子がより良い教育・研究環境の中で勉学に勤しむことができることがわれわれ会員の願いです。昨年(2003)の11月15日には同窓会の創立50周年記念総会が盛大に開催されました。本会はまだ設立したばかりのよちよち歩きの段階ですが、これから先輩格の同窓会と緊密に手を携え合って車の両輪として協力してまいり所存です。今後ともなお一層のご厚情を賜りますようお願いして、挨拶と致します。

敬具



法文学部教育研究棟

## 後援会だよりの発刊にあたって

鹿児島大学法文学部長 辰村吉康

皆様方も既にご承知のことと思いますが、鹿児島大学は4月から国立大学法人鹿児島大学となり、設置形態が変わります。現在学長を中心として、その準備作業に入っておりますが、まさに激動の日々を送っております。



辰村法文学部長

俗にいう国立大学の法人化ということですが、私自身は学部長に就任以来、設置形態がいかなる形になるにせよ、法文学部及び人文社会科学研究科が足腰を鍛え、地域の皆様方から法文学部及び人文社会科学研究科の存在意義、必要性を認めていただけるならビクともしないという方針の下で、ここ数年、改組改革を進めて参りました。

一例を申し上げますと、平成14年度には人文社会科学研究科の中に臨床心理学専攻を設置し、臨床心理士の養成機関となることができました。更に串木野市にサテライト教室を開設し、地方の皆様方に高度な大学院教育を受講していただくという機会を設けました。平成16年度からは、現在復帰50周年で注目を浴びております奄美大島の名瀬市でサテライト教室を開設する予定です。

平成15年度には、私達法文学部の者にとりましては悲願でもありました博士課程（地域政策科学専攻）を設置することができました。鹿児島大学にとりましては、文系での初めての博士課程です。これで法文学部に入学してきた学生に対して、博士課程までの9年一貫教育を提供できる体制を築くことができました。

更に平成15年4月から、有料の心理臨床相談室を設けました。有料の相談室は国立大学としてはめずらしいものであり、その動向が全国から注目を浴びておりますが、毎日相談に応じきれないクライアントからの申し出があり活況を呈しております。これで臨床心理士認定協会から一種の受験資格の認定申請を行う下地ができました。

今年度は、法科大学院の設置に向け全力を投入しました。幸いに平成16年4月からの開設認可を得ることができました。文部科学省や設置審との折衝過程におきまして、正直なところ解決不可能と思える難題にも直面いたしました。教職員一丸の努力でなんとか乗り越えることができました。現在は平成16年4月からの開設に向けて着

々と準備を進めております。

法文学部は、最近、国際交流にも力を注いでおります。10月にはドイツのミュンヘン大学と法文学部が学术交流協定を締結しました。ミュンヘン大学が交流協定を結んでおります日本の国立大学は、北大、東大、京大、九大のみですから、その一角ににくい込めたということで、報道でも大きくとり上げてくれました。平成16年4月から法文学部の学生をミュンヘン大学に派遣し、ミュンヘン大学からも留学生を受け入れることになっていきます。

以上のように法文学部及び人文社会科学研究科は、飛躍的に発展しつつあります。しかし、これらの改革を進めるにあたって後援会のご支援は絶大なものでありました。後援会のご支援があつてこそその発展と感謝致しております。今後も、法文学部及び人文社会科学研究科は、時代のニーズ、社会のニーズに応じて改革していかなければなりません。今後共、後援会の暖かいご支援をお願いしつつ、後援会だより発刊のごあいさつとさせていただきます。



桜島を望む、鹿児島大学（郡元キャンパス）

## 教務委員会

教務関係の話題を2つお知らせします。

1 番目の話題は交換留学生の件です。法文学部では、今年、ミュンヘン大学との学術交流協定が結ばれましたが、このほかに鹿児島大学では、外国の大学との留学生交流を図り、相互の教育・研究水準の向上に資するために、いくつかの外国の大学との間で学術交流協定が締結されています。最近、この学術交流協定制度を利用して、海外の協定大学の学生が法文学部へ、あるいは法文学部の学生が、外国の協定大学へ短期留学するケースがみられるようになりました。この状況を反映して、今年度、法文学部では、短期留学により外国の大学で取得した単位を、法文学部の卒業単位として認める規則を作成しました。

2 番目の話題は、学生諸君の単位登録方法の件です。これは必ずしも法文学部固有のものではありませんが、新年度から、学生諸君が、受講したい科目を登録する場合、インターネット上から登録することができるようになります。つまりインターネットに接続されたパソコンがあればどこからでも時間割登録が可能になります（パソコンを持っていない諸君は、大学のパソコンで登録ができます）。これまでも一部の科目はネット上からの登録が可能でしたが、これからはすべての科目がネット上から登録できるようになり、便利になると思います。（教務委員会委員長 金丸哲）

## 法文学部の国際交流

法文学部では、海外の諸大学との交流を積極的に推進しています。

平成15年10月には、ドイツ・ミュンヘン大学日本センターと学部独自の学術交流協定を締結し、16年4月に留学生1名を受け入れるとともに、本学部より1名の学生がミュンヘン大学に留学します。また全学の国際学術交流協定に基づき、平成13年より、韓国の江陵大学校・済州大学校・全北大学校から、毎年各大学2～3名の短期留学生（1年間）を受け入れています。このほか私費外国人留学生として、中国などから数多くの留学生を迎えています。



ドイツ・ミュンヘン大学

研究分野では、平成14年に、法文学部が中心となって学術交流協定が締結された中国人民大学と、おもに経済学分野での研究者交流集による英文雑誌として刊行されています。また東アジア・東南アジアを研究フィールドとする教官による共同研究・共同調査も多数行われています。

法文学部は、留学生が日本の社会・経済・文化・歴史を学ぶ上で、もっとも適した学部であり、また南に開かれた窓口としての鹿児島の地理的特性を活かして、これからも国際交流活動をより活発にしていける予定です。

（法文学部国際交流委員会委員長 渡辺芳郎）

## ドイツ留学の抱負

法文学部経済情報学科片桐ゼミ4年 藤谷和子  
2年生の春休みに1ヶ月のドイツ滞在を経験し、その後もドイツ文化や言語の勉強を続けています。

平行して、ゼミ活動での議論を行ううちに、日本の社会問題をドイツと重ねて考えるようになりました。少子化による労働人口の減少によって、外国人労働者受け入れ問題は日本でも避けては通れないテーマとなり、その点で、ドイツは日本の未来像でありうると考えています。少なくともドイツの政策と現状は日本でも学ばれる必要があると感じています。この留学を機に、社会問題をより深く考究したいと思います。

さらにゼミ活動の家族社会学をドイツで引き続き研究し、これまでの私の研究テーマである「社会参加としての保育」の継続として Munchen 大学でも家族社会学を専攻し、日本の子育てとの比較をした結果を帰国後の論文の資料として役立てたいと考えています。

また、外国に長期滞在することは自分を客観視するチャンスになります。日本においても私はいつも自分自身と向き合うことを心がけています。さらに私は自己表現に苦手意識があるため、集団主義の日本文化としばしば対比される、ドイツのような「個人主義」の文化やそれに伴う言語に触れたり、人と接したりすることによって、自ら自己表現する場に身を置きたいと考えています。そのような積極的なコミュニケーションをとることはドイツ語力の向上にそのままつながり、さらに知的好奇心についての議論もより一層深まるものと期待しています。

## 就職委員会

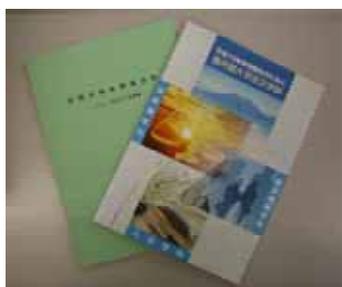
就職戦線の氷河期とか、超氷河期とかいわれはじめて久しいのですが、いっこうに改善される気配すらありません。これは、平成不況が依然として猛威を振っているためですが、しかしそればかりではありません。日本的経営とその構成部分である日本的雇用のあり方が変化しはじめ、4月・学卒・一斉採用、終身雇用、オン・ジョブトレーニング、企業別労働組合などの日本的雇用の慣行が崩れ、採用は徐々に通年化し、欠員が生じた場合に、即戦力になる人材を採用し、専門的技術や資格をもったものを期限付きの雇用とし、その他の者は派遣労働などアウトソーシングするというようになってきています。もちろん、すぐにすべての業界でそうなるというわけではないにしても、トレンドはそういった方向です。

法文学部は、各学科でその程度は違いますが、一般的にいえばジェネラリストの養成を念頭においてきていたと思います。ところが、昨今の流れはスペシャリストを求める企業が増えています。

このような経済社会と大学の状況のなかで、就職率が大きく低下しています。

昨年12月の集計でも、就職内定率は、56.1%となっています。学部就職委員会としても、3年生の早い時期から就職ガイダンスをくり返し、就職活動についても肌理の細かい指導を行うようにつとめています。

これらのとりくみに際して、法文学部後援会から多大な御援助をいただき、感謝にたえません。厳しい環境のなかでも、卒業生の希望にそった進路の決定のために、一層の努力をしたいと思いません。(法文学部就職委員会委員長 飯田泰雄)



就職活動体験報告集2003、平成16年度学部案内

## 学生の声（就職活動体験談）

「私は初めから一般企業への就職しか考えていなかったのですが、3年の10月中旬から開かれている大

学主催の就職セミナーにはほぼすべて参加しました。その中でリクナビや日経就職ナビへのアクセスや活用法などを知り、まずそれらにエントリーしました。そしてそれを通じて12月末までに約30社程度に資料請求をしました。……面接対策としては、予想される質問事項にたいする回答を丸暗記するのではなく大まかな内容だけを頭に入れておくということや、志望動機と自分の長所を関連付けて述べることで、自分の意見に矛盾がないかなどに特に気をつけました。また、普段から言葉使いに気をつけたり、友達と模擬面接をしたりをするのもいいとおもいます。」(人文学部 濱田隼一：読売新聞社)

「まず第一に動けるだけ動くということから始めました。人文学部の桜井先生が開かれている就職ゼミ、内定をもらっている4年生が運営している「就活だよ!全員集合!」、そういうところ出会った仲間との自主ゼミ、東京で行われる就職塾、セミナー。こんなふうに、本格的に就職活動(各採用試験)がはじまる前に色々な場所に出向き、様々な人と会い、多くの情報を得ました。次に、得た情報の選択をし、そして様々な人との出会いから自分を映し出して自分と向き合いました。その様々な場所で何度となく繰り返した模擬グループディスカッションや、模擬面接、ESの添削はその技術を上げていくことが本来の役割ではなく、そこで自分と向き合えることが本来の役割なのだと、今は思います。」(人文学部 中嶋美子：鹿児島放送局)

\* 『就職活動体験報告集 2003年度版』から抜粋



キャンパス内メイン道路風景

## 広報委員会の活動

今年度、広報委員会では、法文学部受験生のために、学部紹介パンフレットを作成しました。各学科の教育の特色、それに就職状況、大学生活などもまじえて、ビジュアルなものをつくりました。ごらんになりたいときは、法文学部学生係までご一報ください。

受験生対象には、毎年夏休みに「オープンキャンパス」を開催しています。学部・学科紹介、進学担当の先生方との懇談、模擬授業を実施しています。遠くは九州外からの参加者もいます。今年は、あいにく台風と重なり中止になりましたので、大学祭期間中に実施しました。

高校生が鹿大法文学部に来て学部・学科の紹介を聴く「高校訪問」、法文学部の先生が高校に行って授業をおこなう「出前授業」にも取り組んでいます。「高・大連携」は、高校生に「大学とはどんなところか」「なにを学ぶのか」を知ってもらうためにも、とてもいい企画なので、これからも力を入れていこうと考えています。

(広報委員会委員長 小栗 実)



法文学部前の東屋の風景

## 学生の声(学部等紹介)

「学問すること」

人間と文化コース2年 安永真利子

人間と文化コースには、臨床心理学・児童文化論・認知心理学・社会心理学等、人の心に関する様々な分野を専門にしている教授陣がいます。コース所属決定後、ここではまず心理学の基礎や歴史、そして各分野のことを学びます。心理学という学問に漠然とした興味を抱いている人や、既に自分の専門領域を心に決めている人にも、各分野

を垣間見た後にゼミを決定できるというチャンスと十分な熟慮時間が与えられています。現在、私達2年生は、心理学の論文の読解や発表の仕方など基礎的な部分から学んでいます。近年、心理学はメディア等で取り上げられる機会も多く、その人気も上昇しています。一般書を独自に読み興味を充足させ知識を得ていくことも大切ですが、本コースに所属し心理学を系統立てて学ぶことで、学問としての心理学の新たな意味・有用性等が見えてくるとともに、自己の内部にも成長と発見を感じることができるだろう、と私は考えます。



鹿児島県庁でのインターンシップ

「演習を受けて」

経済情報学科3年 尾崎理志

経済情報学科では、2年生から各研究ゼミに分かれて「演習」を受講し、より専門的に学んでいくこととなります。「演習」は、これまで私達が体験してきた受身的な講義とは違い、自分の意見を積極的に出していくことが求められますし、また学生主体のもので、演習を通じて専門科目を深く学ぶということだけでなく、自分の可能性や能力を大いに伸ばせる場所であると思います。現在、私はマクロ経済学とミクロ経済学を中心とする演習を受講しています。マクロ経済学などは名前だけで敬遠されがちですが、現代社会の経済メカニズムを分析するためには欠かすことのできない学問の一つです。私自身、当初は分からないことばかりだった経済のメカニズムが、この演習を受講したことで徐々に理解できるようになったというのが何よりの収穫だったと思っています。

(『平成16年度受験生のために』から抜粋)

## 「博士後期課程で学んで」

地域政策科学専攻 1年 深見 聡

(NPO法人「かごしま探検の会」理事長)

私は、2003年に新設された、人文社会科学研究所博士後期課程に在籍し、日々研究や教育実践に取り組んでいる者です。私は学部時代から一貫して「まちづくり」に関心を持ち、研究にあたっています。理学部地学科では、都市災害と地盤形成史をテーマに卒業論文を書き、教育学研究科では、まちづくりと住民参加について特にNPOの存在に注目し、まちづくり生涯学習とボランティアの存在を修士論文にまとめました。

それらを土台に、現在は、NPOによる地域政策と住民参加について博士論文執筆を進めるところです。地域政策科学専攻の特徴は、社会人向けの夜間主開講大学院の看板を掲げながら、社会人のリカレント教育の場として柔軟な科目編成や論文指導体制が確立している点です。また、法文学部三学科を設置母体としているので、地域政策、文化政策に関して、基礎研究をした上で、学際的な研究を教官の指導と議論のなかで新しい理論や実践にあたることのできる総合文科系の魅力にあふれています。

これからも、期待に応えられる研究成果と地域貢献に邁進していく所存です。後輩のみなさんも、ここ地域政策科学専攻にご入学されますことをぜひ検討されてみてはいかがでしょうか？

## 後援会設立の経緯

平成14年8月の教授会で辰村学部長から、後援会設立へ向けての取り組みについての提案がなされ、国立大学の人文・法文系の学部の状況を調査した結果、ほとんどの大学で後援会を設置していることが分かり、本学部でも設置することを、教授会として承認し、12月に、設置準備委員会(仮)を発足させました。1月末に、在学生の保護者の中から5人の発起人を依頼し、趣意書・規約案等の準備をすすめ、平成15年4月25日に、第1回設立準備委員会を開催し、顧問に、辰村吉康法文学部長、会長に、十島雅蔵氏(大学院2年)、副会長に勝間正幸氏(経済情報2年)と中瀬正茂氏(人文1年)を選任し、7月11日の理事会(仮)で、学年理事等を決め、8月2日の総会で、役員、規約等を提案し、承認して頂いて、正式に発足することができました。

なお、新入生(保護者)の加入率は80%を超えており、順調な滑り出しをしましたが、まだ御加入されていない方々の御加入を切にお願いいたします。

(常任理事 皆村武一)

## 平成15年度法文学部後援会事業報告

(平成15年4月1日～平成16年1月31日)

1. 学生の就職環境支援に関する事業  
平成15年10月 第3回就職ガイダンス講演支援・学生体験報告支援  
平成15年12月 第4回就職ガイダンス講演支援  
平成15年10月 英語教員採用試験対策講義支援  
平成15年11月 同 上  
平成15年12月 同 上  
平成16年1月 同 上  
平成15年12月 就職活動体験報告集印刷発行支援  
平成15年12月 就職活動体験報告寄稿学生への支援
2. 学生及び教職員の研究活動に関する支援  
平成15年8月 大学院臨床心理学専攻院生実習支援  
平成15年11月 自己評価委員会「GPA」導入のための調査旅費支援  
平成15年12月 法科大学院設置準備委員会3大学教育連携協議会支援  
平成15年12月 博士後期課程「地域政策科学専攻」論文査読協力支援
3. 学生及び教職員の福利厚生に関する事業  
平成15年10月 鹿児島大学祭法文学部実行委員会サークル支援  
平成15年10月 非常勤講師室整備
4. 学部の運営・教育環境の整備に関する事業  
平成15年6月 博士後期課程「地域政策科学専攻」等設置記念式典支援  
平成15年9月 法科大学院適性試験実施支援  
平成15年9月 9月卒業式式典支援  
平成15年11月 鹿児島大学祭オープンキャンパス及び大学祭実施支援  
平成16年1月 3号館防犯照明設備取設支援
5. その他の事業  
平成15年9月 自己評価委員会・FD委員会における特別講演会  
平成15年10月 県内高校出張授業教官支援
6. 国際交流事業  
平成15年10月 ドイツミュンヘン大学との学術交流協定締結のための支援

## 総会ご案内

平成16年度の総会は4月24日(土)の午後に開催予定です。  
多数の方のご出席をお願い致します。

## 法文学部後援会役員名簿

顧問：辰村吉康，会長：十島雅蔵  
副会長：勝間正幸，中瀬正治  
常任理事：袈谷清幸，皆村武一(評議員)  
理事：(法政策学科) 前田美和子，袈谷清幸，黒木孝雄  
(経済情報学科) 小原幸三，勝間正幸，満留光喜  
(人文学科) 加治木優，田島健二，中瀬正治  
瀬戸口洋一，迫田郁美  
(人文社会科学研究所) 中瀬正茂，十島雅蔵  
学部理事：(法政策学科) 采女博文，中元尚紀  
(経済情報学科) 松川太一郎，山本一哉  
(人文学科) 石村満宏，細川道久  
監査：渋谷 正，  
監事：田多園文雄，  
事務局：田多園文雄(事務長)，宮崎逸男(総務係長)  
浦崎和広(専門職員)，湊 哲郎(学生係長)